

慶大生調査、地元も参考に

カメラ携帯で 魅力撮影

5商店街



金沢の街の風景をカメラ付き携帯電話で、採取、する慶大生—金沢市の豎町商店街

わいの基本は人のコミュニケーションにあると考えており、より自然な街の様子や人の表情をとらえるため、手軽なカメラ付き携帯電話を用いる。

十七日、片町商店街のビズカフェで行われたオリエンテーションの後、学生は一齐に雪の街に飛び出し、靴店に並んだ長靴や、街を歩く人の様子を撮影していた。

一月中旬にも、学生たちのポストカードが完成する見込み。金沢中心商店街まちづくり協議会では、ポストカードを撮影に協力した店や協議会の販促活動に活用することも検討している。同協議会企画推進委員長の小間井隆幸片町商店街振興組合副理事長は「地元の人が当たり前と思って気付かないことも盛り込まれていると思う期待したい。また、地域の歴史やそれを支える人の努力を感じて帰ってほしい」と語った。

慶大生二十三人が十七日、カメラ付き携帯電話を使って金沢市の中心市街地の調査を始めた。研究のテーマは「人々の集う『場』」。街の歴史や人の服装など各自の関心に基づいて撮影した街の風景を編

集し、一人一人がポストカードを作成、商店街に寄贈する。商店街関係者は、街の魅力を掘り起こすきっかけになると、学生たちを温かく見守っている。

教授のゼミでコミュニケーション論などを学ぶ学生。金沢での調査は、金沢中心商店街まちづくり協議会の協力を得て、香林坊、片町、豎町、柿木島、広坂の五商店街を中心に行う。

加藤助教はまちのにぎ